

令和5年度 渡島公立学校教頭会 基調報告

「未来を切り拓く力を育む
魅力ある学校づくり」

～教職員の資質向上や職務意識の高揚を図る教頭の役割～

令和5年11月18日（土）

渡島公立学校教頭会 研究担当
福島町立福島小学校 玉野 悌司

<令和5～7年度の研究推進計画>

渡島公立学校教頭会 研究推進ロードマップ 2023～2025 《ゴールの姿をイメージし》

【研究主題】 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」 —教職員の資質向上や職務意識の高揚を図る教頭の役割—

令和二年度～令和四年度までの研究成果が土台
「共通取組シート」による具体的な実践の成果
(↓子どもの学びの保障、組織の活性化)
①ICT機器の活用 ②異校種間、学校間との協働性 ③家庭・地域との
組織的な連携 ④学校組織の活性化 ⑤働き方改革との関連性

継続性
関与性
協働性



【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《研究の立ち上げ》	《実践の積み上げ》	《研究の仕上げ》
<ul style="list-style-type: none"> 研究主題の設定 研修計画の立案 「共通取組シート2023」 各市町での実践スタート 単位教頭会での交流、協議、整理 ブロックでの交流、協議 渡公教研究大会 成果と課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町の実態把握と実践収集 視点1についての課題把握と改善点等の分析 <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> 専門性 教員育成指標 授業力 保護者や地域への対応力 研修 ICT活用 ミドルリーダー 	<ul style="list-style-type: none"> 視点2についての課題把握と改善点等の分析 成果の分析、まとめのデータ化 <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> 職務意識 創造性 コンプライアンス 危機管理意識 課題意識 学校運営参画意識
実態把握・実践交流	課題把握・改善点分析	課題解決・実践の充実

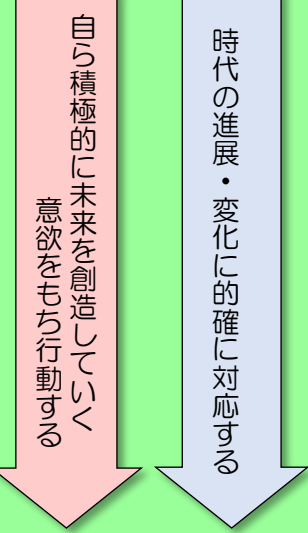
【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

主な社会背景 技術革新、グローバル化、人工知能の進化、高度情報化社会の到来
「生活の質的变化に対する対応力の育成」

Goal

全国統一研究主題

未来を切り拓く
力を育む
魅力ある学校
づくり



生きる力

<今年度の研究推進>

○実態アンケートの実施

○各校での実践を記録

○実践を各市町で交流

○ブロックで交流

○渡島全体で交流

<今年度の研究推進>

渡公教「共通取組シート2023」

2023渡公教「共通取組シート」兼「実践のまとめシート」 学校名:()

【研究主題】 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」
～教職員の資質向上や職務意識の高揚を図る教頭の役割～

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

【研究の重点】 ○教職員の 力量の向上 につなげる 校内研修体 制づくり	各校の実践内容 キーワード: 教員育成指標にある専門性、授業力、保護者や地域への対応力、ICT活用能力、研修体制
	○成果

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

【研究の重点】 ○教職員の 協働体制作 りと、学校運 営への参画 意識の高揚	具体的な自校の取組内容や体制 キーワード: 教職員の学校運営参画意識の高揚、コンプライアンスや危機管理意識の向上、学校段階間連携を通じた教職員の課題意識の高揚、職務意識の高揚と創造性を発揮させる体制づくり
	現状における課題等

＜今年度の研究推進＞

渡公教「共通取組シート2023」兼「実践のまとめシート」について

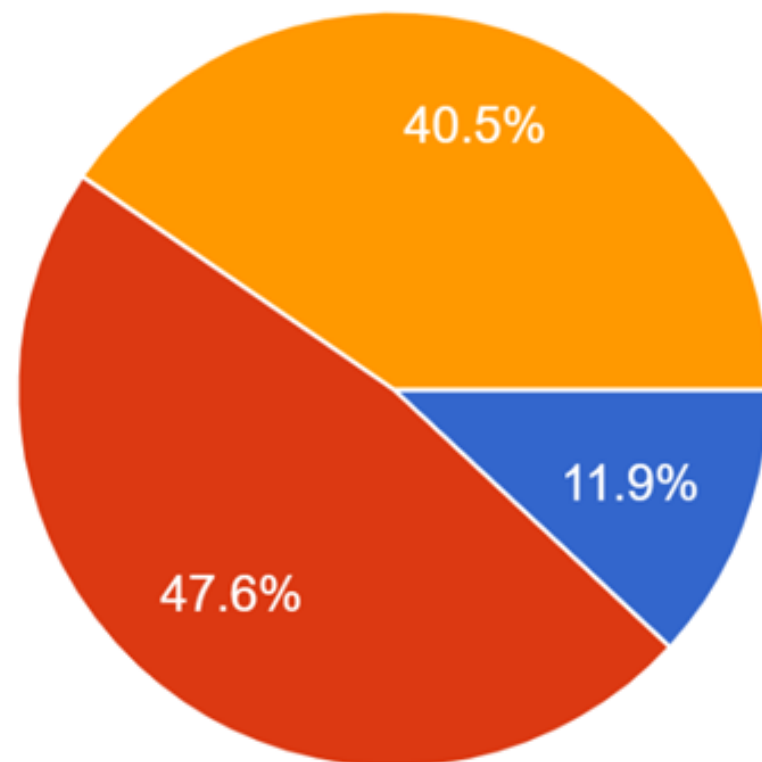
- (1) まずは、各学校における実践内容を実践の都度記録**
- (2) 「いつ」「だれが」「どのように」行った実践かがわかるように**
- (3) 「研究や取組のポイント」について、自校の実践等を書き込む**
- (4) 各学校の実践→各市町で交流→渡公教で交流**

**実態アンケートで
課題が浮き彫りとなったもの**

<研究の方向性>

(8) 教職員の学校段階間連携を通じた課題意識

42件の回答



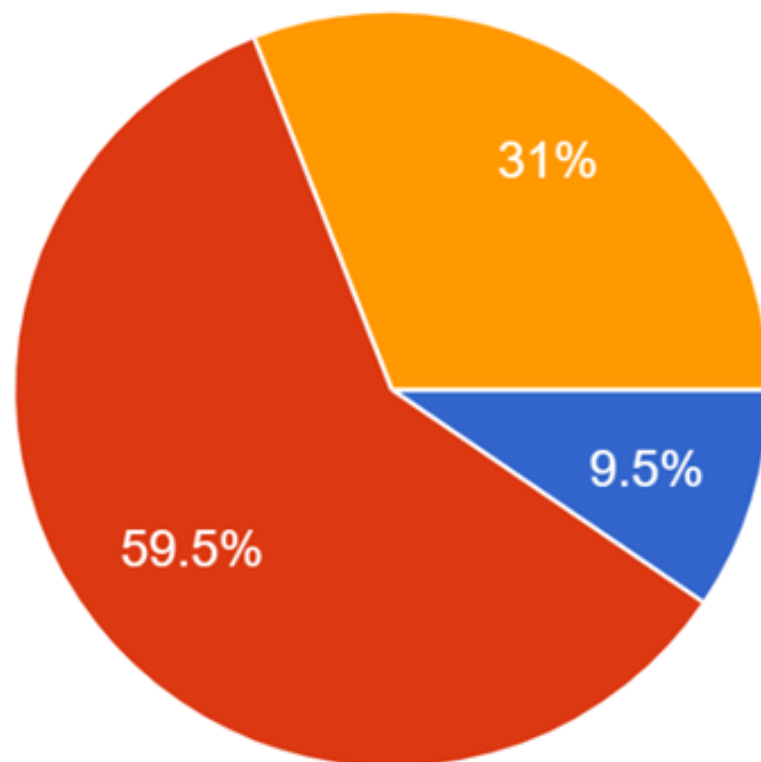
- 1.満足できる
- 2.まあまあ満足できる
- 3.あまり満足できない
- 4.満足できない

**40.5%が
「あまり満足できない」**

<研究の方向性>

(9) 教職員が創造性を発揮する体制

42 件の回答



- 1.満足できる
- 2.まあまあ満足できる
- 3.あまり満足できない
- 4.満足できない

**31%が
「あまり満足できない」**

<研究の方向性>

アンケートから見える課題（全体の傾向）

（8）教職員の学校段階間連携を通じた課題意識

- ①連携組織ができていない
- ②形だけの連携になっている
- ③連携をする時間がない
- ④連携の意義を見出せない
- ⑤成功例を知らない

<研究の方向性>

アンケートから見える課題 (全体の傾向)

(9) 教職員が創意工夫を発揮する体制

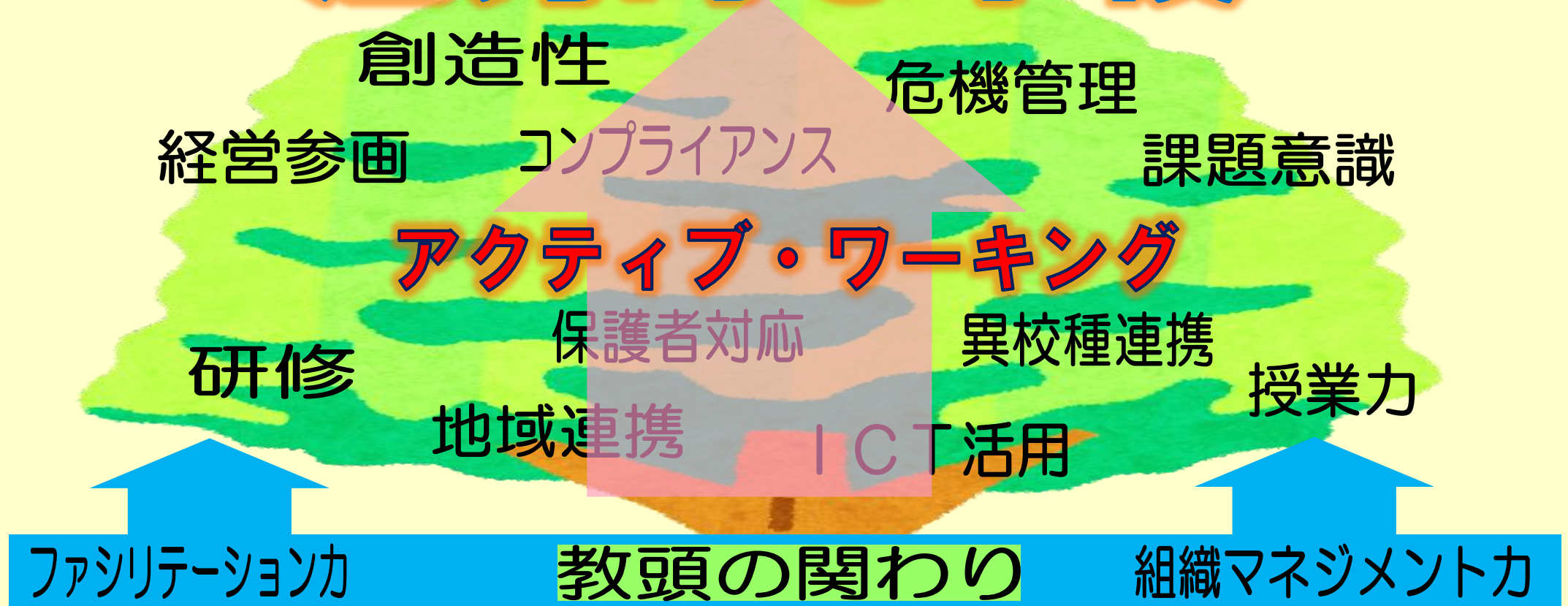
- ①業務のルーティン化
- ②変化への抵抗感
- ③創造＝手間 という意識

<研究の方向性>

【共通すること（教頭の役割）】

教職員のネガティブな思考を
ポジティブに変換していく

魅力的な学校



心理的安全性が担保された職場

今後の取組

- 学校ごとの課題を把握し、課題を共有している学校同士で情報交流しながら課題を解決していく。
- 各校での良さを伸ばすことができた事例を共有し、実践していく。

⇒ 「共通取組シート」での実践の共有

2023渡公教「共通取組シート」兼「実践のまとめシート」

「魅力ある学校づくり」 への取組



松前町
Matsumae Town



福島町
Fukushima Town



木古内町
Kikonai Town



知内町
Shiriuchi Town

渡公教第1ブロック

木古内町 知内町 福島町 松前町

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

◇ICTに特化した研修、先進校との連携

◇研修内容や児童の実態等の定期的な交流、日常的な対話

◇小中高連携による授業公開

- ・テーマ別
- ・キャリア別
- ・ICT活用
- ・異校種教諭による授業

◇多様な研修方法の模索～教員育成指標を基にした研修

- ・生徒指導対応研修
- ・保護者対応事例研修
- ・学校経営方針浸透研修
- ・授業力
- ・危機管理
- ・コンプライアンス
- ・生徒指導提要研修
- ・特別支援研修
- ・体育実技 等

◇地域と協働した学習活動を通じた教職員の資質向上の推進

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《 成果 》

- 各経験段階における教職員の資質・能力がどうあるべきか、職員一人一人自覚できてきたように感じられるようになった。
- 実践的な研修により、より自分事として課題をとらえ、意欲の向上が見られた。また新たな気づきなどが多い。
- 町内の学校で研究主題を共通させ、足並みをそろえた研修活動を推進することができた。
- 地域と協働した学習活動を実践することで、地域との信頼関係、教師の地域理解も進み、教職員の資質向上が図られた。
- 欠席者とのオンライン授業等で、一人一台端末を用いた実践を進めることができた。

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《 課題 》

- 学校経営参画意識の高まり
- 働き方改革の一層の推進による研修・自己研鑽時間の確保
- 職場が一体となって学校運営、生徒指導、児童理解にあたる意識
- キャリアステージによる温度差
- 町内小中学校の取組の統一感

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

- ◇職員同士が対話する機会の設定（含心理的安全性の確保）
- ◇グランドデザイン作成への全職員の関与（目標を共有）
- ◇地域参画についての教頭業務の「見える化」
- ◇ミドルリーダーをファシリテーターとして育成（前向きな合意形成）
- ◇メンターチーム、学校力向上チームの活用
- ◇課題に応じたチーム編成と対応・解決策等の共有
- ◇教員育成指標や人事評価制度を活用した面談の実施
- ◇学校間交流の充実（町研等での授業公開、交流）
- ◇個々の適性や資質に応じた業務分担
- ◇コンプライアンス確立に向けた自立的な職員クラブの運用
- ◇地域行事への参加機会設定
- ◇「チャレンジ」へのポジティブな称賛

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

《 現状における課題等 》

- 職務意識は高まっていると「感じられる」段階 実感までは至らず
- 教育目標実現への意識（行事等）
- キャリア等個々の温度差
- 教育課題の対応への難しさ（誰が・どのチームが対応するのか）
- 多忙寒、保護者・生徒指導対応などの複雑化・多様化（意欲の低下）
- 教職員の研修に取り組む姿勢の涵養
- 困難な課題に取り組むための相談体制の確立
- ICT活用の個人差
- 人事異動による不完全な学校文化の醸成

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

《 具体的な解決策 》

- ◎対話と傾聴 職員の思い考えを受け取りつつ経験を伝え協働へ
- ◎管理職としての行動力 有言実行
- ◎教頭として常に研鑽に努めること
- ◎意識が低い職員にリーダー等役割を与え責任感、成就感を味わわせる
- ◎困難な課題の整理 必ず組織で対応
- ◎働き方改革の意義を周知・断行 シンプル・コンパクト・高価値
- ◎適切なメンティとメンターのペアを作り業務を推進
- ◎面談等を活用した、個々の資質に応じた研修計画の作成
- ◎ICT活用に関するミニ研修の充実

2023渡公教「共通取組シート」兼「実践のまとめシート」

「魅力ある学校づくり」 への取組



渡公教第2ブロック
鹿部町 七飯町 北斗市

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

- ①学校課題を解決する研究主題の設定。
- ②学校で育成すべき資質・能力の明確化及び指導と評価の一体化。
- ③研究部を中心としたICT研修を充実させ、個別最適な学びと協働的な学びの授業改善を目指した。
- ④子ども理解に基づく「特別な教育的ニーズ」に応える授業づくりを研修テーマとし、心理師などと連携して研修を実施。
- ⑤初任段階の教員の授業力・指導力向上のため、ベテラン教員と学年を組む体制をとることでOJTによる育成を図った。
- ⑥北海道教育大学函館校との共同研究により、校内研修体制を充実させる。
- ⑦教員育成指標の改訂と研修履歴の記録について管理職が説明し、学校として各種研修会への積極的な参加を推奨した。

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

- ⑧先進校の取組の動画を見る視点を校内研の課題とリンクさせ、具体的な実践イメージをもつことができるようにする。
- ⑨教員育成指標を活用し、キャリアステージによる目指す資質能力を明確にし、前後期の期首・期末面談において教頭からの指導・助言を行う。
- ⑩授業改善や学力向上に関わる業務を4つのチーム（学力向上・指導計画改善・授業力向上・学びのきまり）に分け、教職員全員で取り組む。
- ⑪全国学力・学習状況調査の検証分析による、全校統一した学力向上の取組の実施。
- ⑫情報部によるICT活用指導力向上に向けたミニ研修の実施。
- ⑬授業におけるICT機器の利用促進期間の設定。

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《 成果 》

- ①各調査および児童生徒の実態をふまえた学校の強みや課題を把握し、研究主題を設定することで、教職員が同一の方向性をもった授業改善が進められた。
- ②一つ一つの教育活動を学習指導要領に準拠した形で実践していこうとする意識の醸成。
- ③ICT委員の教職員を中心にクロームブックの効果的な活用方法を全職員で共有した。
- ④子どもの困り感を探り、手立てを考える取組を通して、個別最適な学びを推進する。
- ⑤OJTを通して、授業づくりや行事の構想など、ベテラン教員の教育的財産の継承が見られた。

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《 成果 》

- ⑥ICT活用にかかわる実践交流を継続して行うことで、教師の情報活用能力が高まった。
- ⑦業務改善につながるICTの効果的な利用が進み、個々のスキルアップの向上が見られた。
- ⑧「自分も試してみたい」「授業に取り入れたい」「今自分でできるのはここから」という意識を醸成することができた。
- ⑨キャリアステージに応じた様々な研修を紹介することで、自分のライフスタイルに応じた自己研鑽に努めていた。
- ⑩教職員間でもICTを積極的に活用し、校内サーバー上で職員が常に研修案内を閲覧できるようにし、特に必要な研修について個別に紹介することで、研修参加につながった。

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《 課題 》

- ①研究交流による日程調整などの実質的な業務が増える。
- ②提案の内容が各教育活動のねらいや領域を捉えきれていない。
- ③小小連携によるオンライン授業を実施し、同学年の子ども達の交流を深めたり、協働的な学びに結び付けた。今後は遠隔地や他校種との連携を模索したい。
- ④個別最適な学びに意識が偏り、協働的な学びとの連動が不十分である。
- ⑤学ぶ喜びを実感できる授業づくりの在り方について、教師の資質・能力の向上が必要。
- ⑥ICT活用が目的となってしまう、教科としてのねらいから逸れてしまうこともある。

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《 課題 》

- ⑦研修意欲に個人差があり、学校全体として外部研修への積極的な参加意識が高まっていない。
- ⑧具体的なイメージの提示はできたが、すべての教員が自分事として捉えられているとは言えないため、ポイントを絞って繰り返し学ぶことができる研修の企画が必要である。
- ⑨研修参加が十分ではない職員も見られ、研修履歴の日々の確認が必要と感じた。
- ⑩研修を行うための時間確保。
- ⑪校務におけるICT活用は、まだ授業改善に直結するものになっていない。

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

- ①日常的な情報発信を通じた危機管理意識の向上。
- ②分掌業務を内容ごとにカテゴリーに分け、小グループ（2～3人）で機能的に協議することにより、ボトムアップ式の提案や迅速な業務運営を心がけさせた。
- ③校長職と教頭職が一体となって心理的安全性を確保した学校体制の構築を図ってきた。
- ④プロジェクトチームを通じた役割づくりと業務の推進
- ⑤学校段階間連携を強化するため、中学校区の小中連携研修会を実施し、教育活動や児童情報等の交流を深め、新しい連携や企画を模索した。
- ⑥中学校区を基本とした学校運営協議会をさらに充実させ、地域学校協働活動へとつなげる。
- ⑦学年主任・分掌代表等が判断・決定を担う機会を意識した。

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

- ⑧「開かれた対話」がどこでもできるように、心理的安全性の高い職員室運営に努めることで、協働意識の醸成と学校運営への参画意識を高めることができるようにする。
- ⑨各分掌のリーダーや特別支援コーディネーター等による運営会議を開き、職員会議に臨む。
- ⑩教頭が各分掌業務と経営方針との関連を随時確認し、分掌業務の推進を通して各担当者の経営参画意識の高揚がなされるよう図る。
- ⑪教職員の学校運営参画意識を高めるため、分掌業務は一係一人制を基本とし、学校教育目標の具現化に対する意識を高める。
- ⑫教職員一人一人に対する相談体制を整える。

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

《 現状における課題等 》

- ①危機管理意識の向上に関わり、通知の情報量が多く、すべての情報を教員に周知することへの負担がある。
- ②分掌代表が小グループの機能を生かしきれていない。
- ③自己診断シートを有効に活用した個別最適な研修推進が十分果たせていない。
- ④業務が一部の教員に偏り、全体的な参画意識の高揚に結びついていない。
- ⑤行事の企画等、一部のミドルリーダーがまとめて担っているため、一人一人が発想する機会が少ない。
- ⑥新しい試みにより意識の高揚が見られる中で、働き方改革に配慮した上での時間の生み出し方に苦慮した。

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

◀ 現状における課題等 ▶

- ⑦経営参画意識の高揚と創造性を発揮する組織となるには、まだ時間を要する。
- ⑧ベテラン層にいる教職員の意識改革が難しい状況にある。・前年度踏襲になり学校教育目標の達成のための内容になっていない。
- ⑨情報の共有と分掌業務の平準化に課題がある。
- ⑩業務の分担意識が、チームとしての業務推進の妨げとなる場面が見られる。

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

《 具体的な解決策 》

- ①危機管理の周知に関して道教委や市教委の作成したリーフレットなどを活用する。
- ②管理職が分掌運営に適切な助言を行う。
- ③教師の資質・能力の向上が児童一人一人の資質・能力を育むこととなることを職員が自覚できるような体制整備を行う。
- ④担当業務の「見える化」を図る。
- ⑤企画推進業務の分散化を進め、一人一人が自分の業務に責任と達成感を味わえるようにする。
- ⑥ビルド&スクラップのバランスがとれるように、組織という視点で検討を進める。

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

《 具体的な解決策 》

- ⑦働き方改革に向けて個々のアイデアを募集し可能なものはすぐに実践する。
- ⑧役割と責任を明確にし、ベテラン層の活躍が学校を動かす雰囲気醸成を図る。
- ⑨教頭への原案提示を徹底し、全体提案に向けた助言が十分に行えるようにする。
- ⑩職員会議議題を職員会議前に共有し、全職員が見通しをもった業務の推進を図る。
- ⑪地域の人材・物的資源の活用、学校運営協議会との連携を図る。

2023渡公教「共通取組シート」兼「実践のまとめシート」

「魅力ある学校づくり」 への取組



渡公教第3ブロック
森町 八雲町 長万部町

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

1. OJT機能を活かした人材育成
2. 初任段階教員を「育てる」意識と授業スキルの指導、交流、支援
3. 普段着の授業公開、指導案交流を通して校内研修の充実
4. 研修の振り返りとフィードバックの充実
5. 幼保小中高の連携による指導の一本化
6. ICT担当教諭、NST, ICT支援員との連携、ICT活用ミニ研修の実施
7. 心理的安全性を高める職員室風土の醸成、ウェルビーイングの向上
8. 学校改善に向けたベクトルの一致と取組の共有

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《 成果 》

- 資質能力の向上
- 初任段階教諭の成長が促進
- 経営参画意識の醸成
- 協働的組織体制づくり
- 授業改善への意欲向上
- ICT活用の意欲向上、スキルアップ
- 中堅、ベテラン教諭の学び直し
- 管理職、職員間の対話・交流

【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

《 課題 》

- 研修計画の立案（課題設定）の難しさ
- 関係機関との連携による負担感
- 中堅、ベテラン教諭の負担増
- 教職員の課題意識の温度差
- 「今までのやり方」を転換する難しさ
- 旧態依然の授業形態
- ICT活用の意識・技術の差
- 子供と向き合う時間の確保

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

1. 「学力向上SignPost」の活用による授業改善と協働意識を向上させる取り組み
2. 授業づくり、授業改善による学校運営の参画
3. 業務改善に対する意識付け
4. 積極的なコミュニケーションによる心理的安全性を高める雰囲気づくり
5. コンプライアンス意識向上を目指した定期的な職員研修の実施
6. 危機管理マニュアルの見直しと改善、訓練の実施
7. 幼保小中高連携事業の継続と指導の一本化
8. 学校運営の中核を担うミドルリーダーの育成と分掌・学年業務の活性化

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

◀ 現状における課題等 ▶

- 新たな業務による教員の負担増
- 教え込み授業からの脱却
- ビルドアップ&スクラップの定着
- 職員全体の学校運営参画意識の向上
- 前年度踏襲気質の打破
- 危機管理意識の職場全体の向上
- 幼保小中高の連携の一層の充実
- 教員の自己肯定感、有用感の一層の向上

【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

《 具体的な解決策 》

- 教育活動と学校が目指す目標の価値付け
- コンプライアンス担当教員・組織の設置
- 最新の教育情報の発信と共有
- 自分事として捉える意識の向上と働きかけ
- 職員間の対話、面談を通しての状況把握
- 初任段階教員、若手教員の取り組みへの称賛
- PDCAサイクルを積極的に活用した見直しと改善策の提示

2023 渡公教「共通取組シート」兼「実践のまとめシート」 第3ブロック(森・八雲・長万部)

【研究主題】 「未来を切り拓く力を育む **魅力ある学校づくり**」
 ～教職員の資質向上や職務意識の高揚を図る教頭の役割～

【視点1】 教職員の資質向上を図るための教頭の役割

【研究の重点】 ○教職員の 力量の向上 につなげる 校内研修体 制づくり	各校の実践内容	
	キーワード: 教員育成指標にある専門性、授業力、保護者や地域への対応力、ICT活用能力、研修体制	
	1. OJT 機能を活かした人材育成 2. 初任段階教員を「育てる」意識と授業スキルの指導、交流、支援 3. 普段着の授業公開、指導案交流を通して校内研修の充実 4. 研修の振り返りとフィードバックの充実 5. 幼保小中高の連携による指導の一本化 6. ICT 担当教諭、NST、ICT 支援員との連携、ICT 活用ミニ研修の実施 7. 心理的安全性を高める職員室風土の醸成、ウェルビーイングの向上 8. 学校改善に向けたベクトルの一致と取組の共有	
	○成果	●課題
	○資質能力の向上 ○初任段階教諭の成長が促進 ○経営参画意識の醸成 ○協働的組織体制づくり ○授業改善への意欲向上 ○ICT 活用の意欲向上、スキルアップ ○中堅、ベテラン教諭の学び直し ○管理職、職員間の対話・交流	○研修計画の立案（課題設定）の難しさ ○関係機関との連携による負担感 ○中堅、ベテラン教諭の負担増 ○教職員の課題意識の温度差 ○「今までのやり方」を転換する難しさ ○旧態依然の授業形態 ○ICT 活用の意識・技術の差 ○子供と向き合う時間の確保

【視点2】 教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

【研究の重点】 ○教職員の 協働体制作 りと、学校運 営への参画 意識の高揚	具体的な自校の取組内容や体制	
	キーワード: 教職員の学校運営参画意識の高揚、コンプライアンスや危機管理意識の向上、学校段階間連携を通じた教職員の課題意識の高揚、職務意識の高揚と創造性を発揮させる体制づくり	
	1. 「学力向上 SignPost」の活用による授業改善と協働意識を向上させる取り組み 2. 授業づくり、授業改善による学校運営の参画 3. 業務改善に対する意識付け 4. 積極的なコミュニケーションによる心理的安全性を高める雰囲気づくり 5. コンプライアンス意識向上を目指した定期的な職員研修の実施 6. 危機管理マニュアルの見直しと改善、訓練の実施 7. 幼保小中高連携事業の継続と指導の一本化 8. 学校運営の中核を担うミドルリーダーの育成と分掌・学年業務の活性化	
	現状における課題等	具体的な解決策
	○新たな業務による教員の負担増 ○教え込み授業からの脱却 ○ビルドアップ&スクラップの定着 ○職員全体の学校運営参画意識の向上 ○前年度踏襲気質の打破 ○危機管理意識の職場全体の向上 ○幼保小中高の連携の一層の充実 ○教員の自己肯定感、有用感の一層の向上	○教育活動と学校が目指す目標の価値付け ○コンプライアンス担当教員・組織の設置 ○最新の教育情報の発信と共有 ○自分事として捉える意識の向上と働きかけ ○職員間の対話、面談を通しての状況把握 ○初任段階教員、若手教員の取り組みへの称賛 ○PDCA サイクルを積極的に活用した見直しと改善策の提示

NEXT MORI 本気の人材育成研修会 開催について

NEXT MORI の皆様、こんにちは。先日はお忙しい中にも関わらず、日程調査へご協力いただき感謝いたします。第1回研修会で皆様から出された興味・関心について、整理・熟慮し、本気の講師探しを行いました。

つきましては下記のように夏季研修会を開催いたしますので、ともに研修を深めましょう。

1 【第2回】 NEXT MORI 開催内容 (第2回研修会は全3回を予定)

- ・時 ①令和5年6月28日(水)17:10- 1時間程度
②令和5年7月5日(水)17:10- 1時間程度
③令和5年7月12日(水)17:10- 1時間程度
④令和5年7月19日(水)17:10- 1時間程度(予備日)
- ・会場 森町公民館 1階 講堂

☆NEXT MORI の講師とテーマ

講師: 森町教育委員会 教育長 毛利 繁和

テーマ: 「協働で仕事をすること」～学校という組織～

2 【第3回】 NEXT MORI 開催内容

- ・時 令和5年7月26日(水) 9:30-11:30 2時間程度
- ・会場 森町公民館 1階 大会議室

☆NEXT MORI の講師とテーマ

講師: 渡島教育局 義務教育指導監 五十嵐 義幸 様

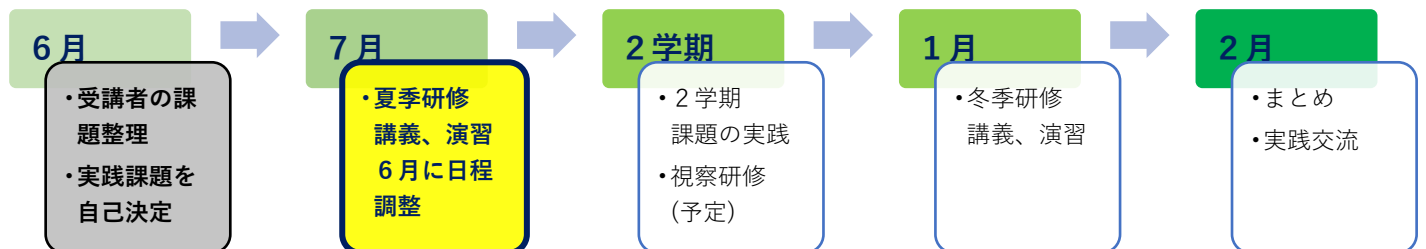
テーマ: 「授業力向上」

講師略歴 平成30年 北海道教育大学附属函館小学校 副校長

令和3年 七飯町立藤城小学校 校長

令和5年 現職

3 研修サイクル 下記の通り計画(予定)しています



森町教育委員会学校教育課参事

名生 達也(めお たつや)

090-7519-7914

meo-t@town.hokkaido-mori.lg.jp



- Step 1**
- ⑪ 新たな学びに目を向けさせる
 - ⑩ その日の学びを振り返る
 - ⑨ 子どもの考えを生かしてまとめる
 - ⑧ 子どもの思考に即して授業展開を考える
 - ⑦ 子どもの思考を見守る
 - ⑥ 自分の考えをもつようにする
 - ⑤ 学習課題を解決する方向性について見通しをもたせる
 - ④ 子どもが自らめあてをつかむようにする
 - ③ 子どもが明らかにしたくなる学習課題を設定する
 - ② 具体物を提示して引きつける
 - ① 既習事項の振り返る

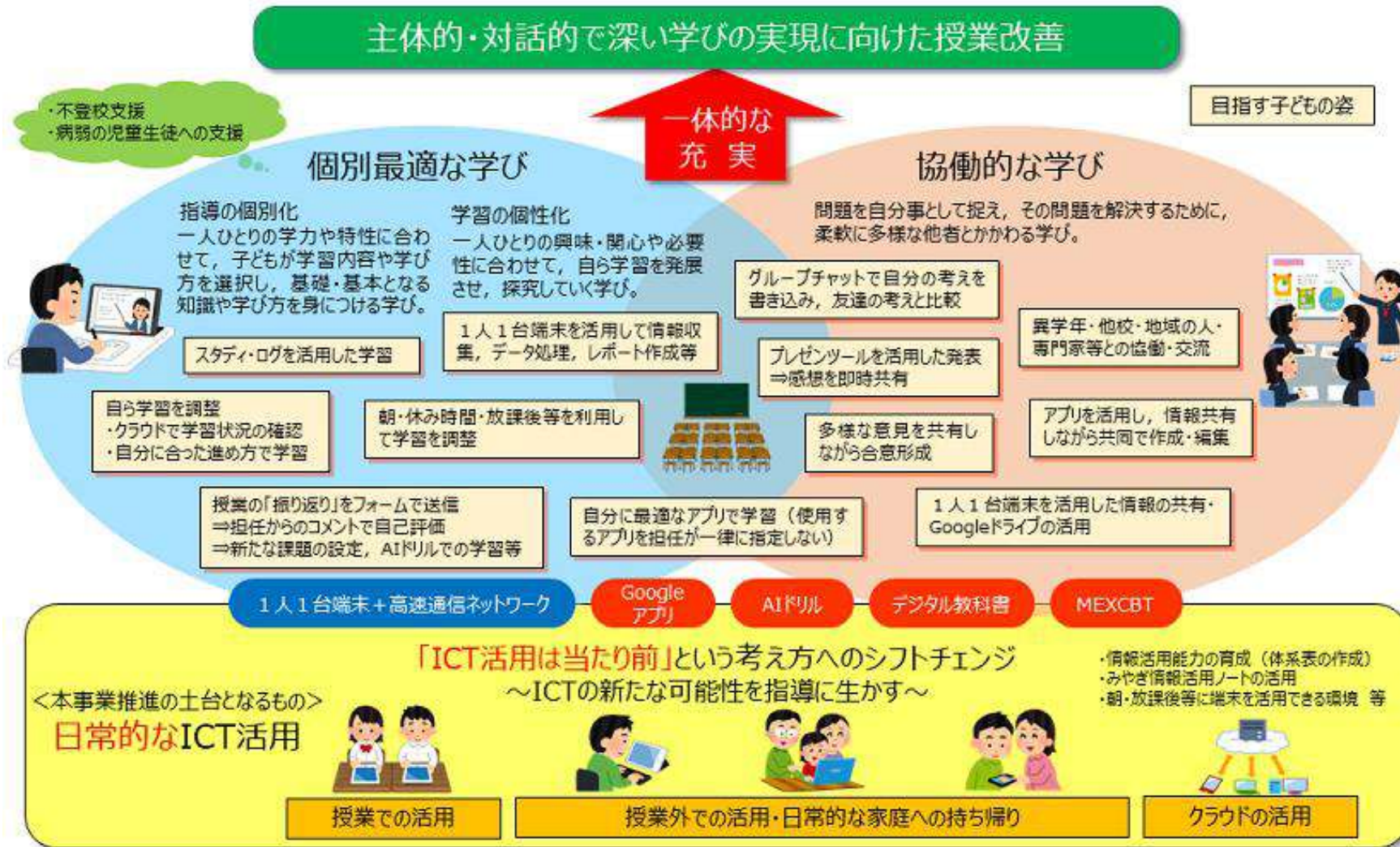
- Step 2**
- ⑮ 交流を通じて思考を広げる
 - ⑭ 思考を交流させる
 - ⑬ 協働して問題解決する
 - ⑫ 発問や板書で子どもの学びを引き出す

- Step 3**
- ㉑ 目標の達成状況を評価する
 - ㉒ 単元及び各時間の計画を立てる
 - ⑲ 教材の価値を把握する
 - ⑱ ねらいを達成した子どもの姿を具体化する
 - ⑰ 資質・能力を焦点化する（つけた力を明確にする）
 - ⑯ 単元や各授業の目標を把握する

授業改善まとめ

NST 新しいかたちの学びの授業力向上推進

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善イメージ



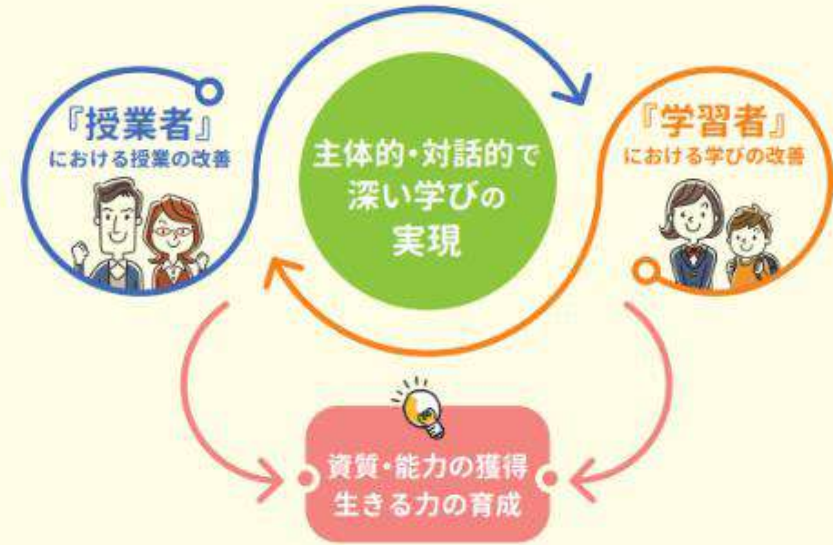
引用：「個別最適な学びに関するモデル事業で目指す『個別最適な学び』と『協働的な学び』の活動イメージ」
宮城県教育委員会 https://www.pref.miyagi.jp/site/gikyuu-gak/kobetsu_saiteki.html

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 学ぶことに興味や関心を持つ ● 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ● 見通しをもつ ● 粘り強く取り組む ● 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既習事項を振り返る ● 具体物を提示して引きつける ● 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ● 子供が自らめあてをつかむようにする ● 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる ● 子供が自分の考えを持つようにする ● 子供の思考を見守る ● 子供の思考に即して授業展開を考える ● 子供の考えを生かしてまとめる ● その日の学びを振り返る ● 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ● 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 思考を交流させる ● 交流を通じて思考を広げる ● 協働して問題解決する ● 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ● 知識を相互に関連付けてより深く理解する ● 情報を精査して考えを形成する ● 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする） ● 単元や各授業の目標を把握する ● ねらいを達成した子供の姿を具体化する ● 教材の価値を把握する ● 単元及び各時間の計画を立てる ● 目標の達成状況を評価する

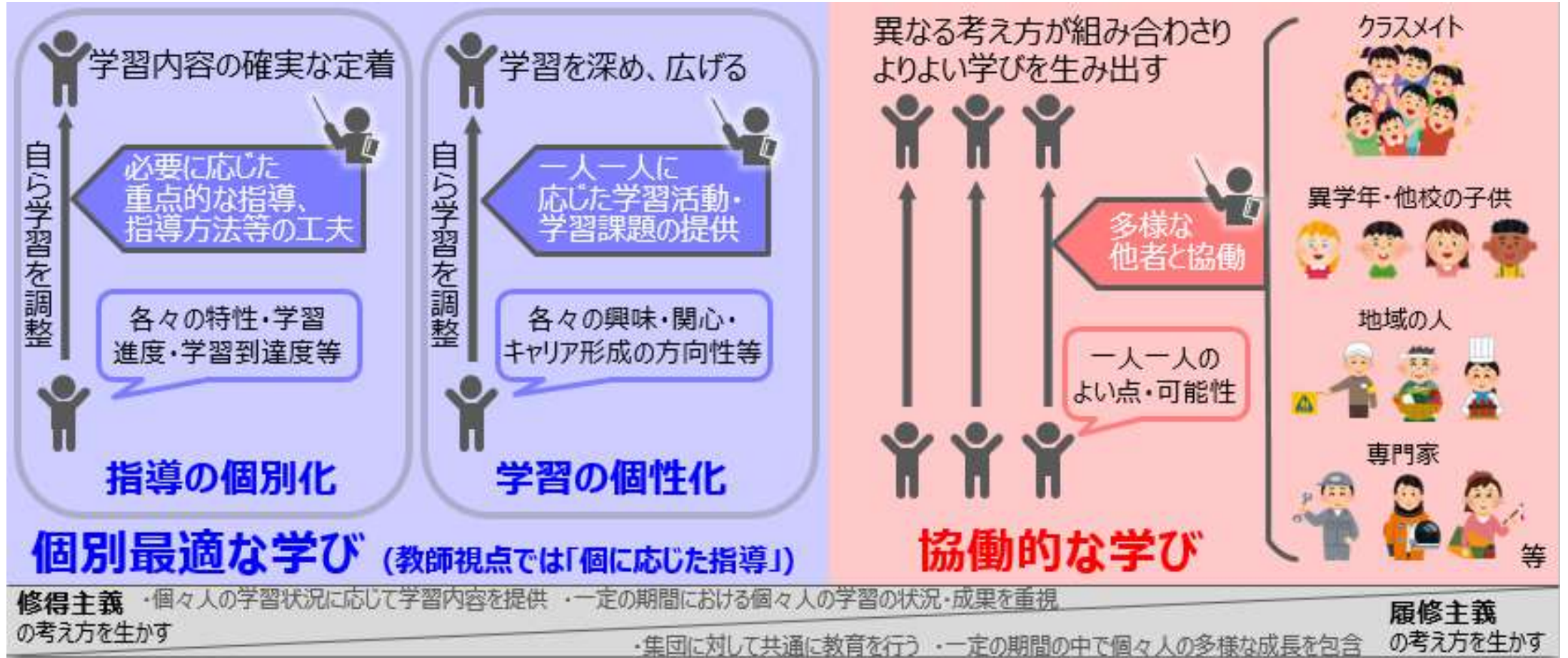
主体的・対話的で深い学びは単元などを通して実現

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。主体的・対話的で深い学びの実現は、バランスある資質・能力の実現につながり、さらには生きる力を育むものとなる。



3

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実イメージ



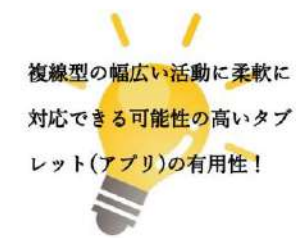
引用：「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実（イメージ）」
文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_01542.html

4 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学習過程



従来の単線型授業と大きく異なる学習スタイル

- 学習の全行程において、個別最適な学びが前提
- 教師の主な仕事は
 - プランナー(解決の見通しが持てない児童のフォロー)
 - アドバイザー(展開部で困ってしまった児童への学習指導)
 - マネージャー(タイムマネジメント)
 - スーパーバイザー(学習内容の統括・まとめ)
- 思考の広がり・深まりを集約し、まとめて価値を高める
- 振り返りの重要性が更に UP
 - 解決の見通しについて
 - 自力解決の内容について
 - 広がった視点、深まった視点について
 - 次時への展望・日常への展開など
- 自主学習の重要性が更に UP
 - 何が必要なのか
 - どんな手段が望ましいのか
 - どの程度すべきなのか



《参考資料》

- [国立教育政策研究所 HP](#)
- [個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実\(北海道教育委員会\)](#)
- [ICT 活用授業指針\(北海道教育委員会\)](#)
- [教育出版『学びのチカラ e-na!!<小学校版> vol.4』](#)

5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けたICT活用

Step 3 教科の学びをつなぐ
社会課題の解決に生かす

Step 2 教科の学びを深める
教科の学びの本質に迫る

Step 1 授業に取り入れる
すぐにも、どの教科でも

Step 0 端末の使い方に慣れる
日常的に活用する



インターネットやクラウドを活用した情報の携帯
書類のデジタル化・ペーパーレス化
情報の連絡・配信・共有
情報の記録



学習者用デジタル教科書・デジタル教材での試行
音声・動画などの提示
画像などを拡大したり、書き込みしたりしながらの提示
指導者用デジタル教科書・教材の提示



クラウドを活用した協働制作
クラウドを活用した互いの進捗状況・考えの共有
活動の様子の記録・再生しての評価
テキストや動画での表現・考えの記録・共有
写真・音声・動画などのマルチメディアを用いた表現
インターネット・デジタル教材を用いた情報収集
MEXCBT・ドリルソフトなどでの学習(家庭学習)



ICT を含む様々なツール

各教科での学びをつなぐ STEAM 教育
単元を縦断した学習
探究プロセスにおける ICT の効果的な活用
インターネットを活用した遠隔学習

参考：『「1人1台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージ」
「ICT活用授業指針～『学びの深化』『学びの転換』へのチャレンジ～」

宮崎県都城市教育委員会
北海道教育委員会

<https://magazine.chieru.co.jp/jr-school/magazine-14711>
https://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/fs/8/8/2/2/0/2/7/_/shishin.pdf

6 2の視点と5のICT活用を学習過程に合わせて整理

	授業改善に向けた「学習者」の視点	ICTの活用	授業改善に向けた「授業者」の視点
（計画）		Step3：各教科での学びをつなぐSTEAM教育 Step3：単元を縦断した学習 Step3：インターネットを活用した遠隔学習	深：資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする） 深：単元や各授業の目標を把握する 深：ねらいを達成した子どもの姿を具体化する 深：教材の価値を把握する 深：単元及び各時間の計画を立てる
導入	主：学ぶことに興味や関心をもつ 主：見通しをもつ 深：各教科などの特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ※ 深：情報を精査して考えを形成する ※ 深：問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう	Step1：指導者用デジタル教科書・教材の提示 Step1：画像などを拡大したり、書き込みしたりしながらの提示 ※ Step1：音声・動画などの提示 ※	主：既習事項を振り返る 主：具体物を提示して引きつける 主：子どもが明らかにしたくなるような学習課題を設定する 主：子どもが自らめあてをつかむようにする 主：学習課題を解決する方向性について見通しをもたせる
展開	主：粘り強く取り組む 対：子どもどうしの協働を通じ、自己の考えを広げ深める 対：教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める 対：地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める 対：先哲の考え方を手がかりに考える 深：情報を精査して考えを形成する ※	Step1：学習者用デジタル教科書・デジタル教材での試行 Step2：インターネット・デジタル教材を用いた情報収集 Step2：写真・音声・動画などのマルチメディアを用いた表現 Step2：テキストや動画での表現・考えの記録・共有 Step2：クラウドを活用した互いの進捗状況・考えの共有 Step2：クラウドを活用した協働制作 Step3：探究プロセスにおけるICTの効果的な活用	主：子どもが自分の考えをもつようにする ※ 主：子どもの思考を見守る 主：子どもの思考に即して授業展開を考える 対：思考を交流させる 対：交流を通じて思考を広げる 対：協働して問題解決する 対：板書や発問で教師が子どもの学びを引き出す ※
終末	主：自己のキャリア形成の方向性と関連づける ※ 主：自己の学習活動を振り返って次につなげる 深：知識を相互に関連づけてより深く理解する ※	Step2：MEXCBT・ドリルソフトなどでの学習(家庭学習) Step2：活動の様子を記録・再生しての評価	主：子どもの考えを生かしてまとめる 主：その日の学びを振り返る 主：新たな学びに目を向けさせる 深：目標の達成状況を評価する

「※」は、学習内容によって意識する学習段階が変わります。

7

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた 国語科の授業づくり①

【例】

単元	A 話すこと・聞くこと (左) 評価内容 (右) 予想されるタブレットの活用例		
単元 導入	単元目標から学習計画を立てる (例)取材して知らせよう(3年) 社会科や行事等と絡め、取材を通して知ったことを知らせる報告文を書く。	学習のめあて 「〇〇について取材し、報告文でみんなに知らせよう」	⇒アイデアの共有 ⇒社会科等との連携 ⇒アイデアの整理 ⇒質問事項の精査
	丁寧な言葉とともに敬体と常体の違いを知る【知技】 取材したことをメモし、見通しをもって報告文の計画を立てている【思判表】	・取材に関わる礼儀作法などを確認する ・取材したことを簡単にメモにする。 ・記事として扱う内容を精査する。	⇒取材の録音・録画 ⇒メモの共有
単元 終末	伝えたい内容が伝わるよう報告文を書いている 相手を意識したお礼の手紙を書いている 【思判表】	・報告文を書く ・宛名等の書き方を知る ・お礼のお手紙を書く。	⇒タブレット入力? ⇒原稿用紙の活用? ⇒データの公開
単元	B 書くこと (左) 評価内容 (右) 予想されるタブレットの活用例		
単元 導入	単元目標から学習計画を立てる (例)町の「すてき」をつたえます(2年) 生活科で行った町探検の写真に紹介文を添え、自分の住む街を紹介する。	学習のめあて 「森町すてきガイドブックを作って、役場に置かせてもらおう」	⇒生活科の写真活用
	生活科の写真を使い、考えをまとめる【思判表】 メモの取り方を知る。 分掌の構成を工夫している【思判表】 正しく句読点等を使うことができる【知技】	・写真を選び、紹介する理由を考える。 ・メモを取る ・句読点の正しい使い方を覚える。	⇒アイデアの共有 ⇒読み合いからの添削
	内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している【思判表】	・目的意識を明確に、ガイドブックを書く	⇒タブレット入力? ⇒原稿用紙の活用? ⇒データの公開
単元 終末			

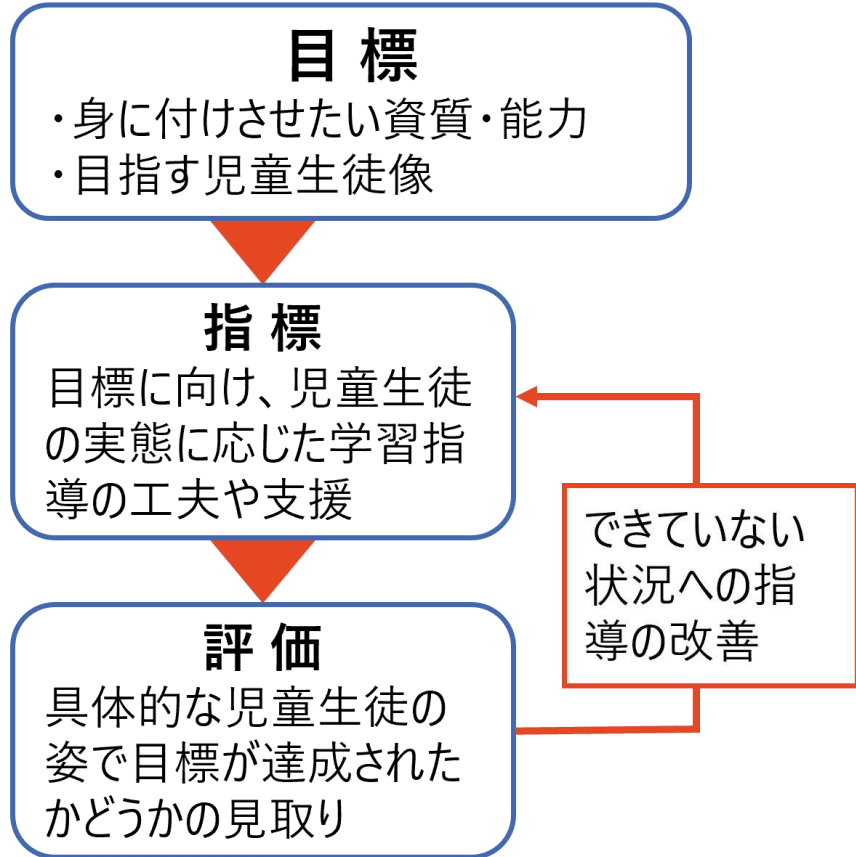
7

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた 国語科の授業づくり②

単元	C 読むこと (左) 評価内容 (右) 予想されるタブレットの活用例	
単元 導入	単元目標から学習計画を立てる (例) おおきなかぶ(1年) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	学習のめあて 「おじいさんたちの様子を想像して、おおきなかぶの劇をしよう」
	登場人物の行動や動き、気持ちなどを文章から想像し、気持ちを込めて音読している。 【知技】【思判表】	・言葉の意味 ・登場人物の動きや心情の読み取り ・読み取った気持ちを込めた音読
	場面を理解し、応じたセリフを想像している【思判表】	・劇の実施と振り返り
単元 終末		⇒感想の交流 ⇒学習内容の交流 ⇒動画撮影 ⇒録音や動画の撮影 ⇒音楽科等との連携 ⇒動画の公開 ⇒評価
単元	伝統的な言語文化と国語の特質にかかわる事項 (左) 評価内容 (右) 予想されるタブレットの活用例	
単元 導入	単元目標から学習計画を立てる (例) きせつの言葉を集めよう(3年) 季語について意味を知り、該当する季節について考えることが出来ている【知技】	学習のめあて 「季語をたくさん並べ、俳句を作ってみよう」
	伝えたいことを厳選し、季語を取り入れて俳句を書けている【思判表】	・俳句に挑戦(ひとりで・ふたりで・みんなで)
単元 終末		⇒インターネットの活用? ⇒タブレットの活用? ⇒作品の共有 ⇒データの公開

9 評価の観点と流れ

《指導と評価の一体化のイメージ》



「指導に生かす評価」

毎時間行う評価です。例えば、単元の前半では努力を要する状況の児童生徒を中心に見取り、単元や本時の目標を達成するために必要な手立てや支援を行うことも考えられます。いわゆる「指導改善に生かす」ための評価のことです。

目標の実現のために、児童生徒の学習状況を机間指導等で適切に見取って支援し、つまずきの確かな解消を図ります。

「記録に残す評価」

指導した内容について、児童生徒の達成状況を見取り、全員分記録に残し総括するための評価です。そのため単元のまとまりの中で指導した内容の達成状況が適切に見取れる段階で評価します。

1回の授業で3観点全てを評価するのではなく、「記録に残す評価」の場面を精選することが重要です。

「観点別学習状況の評価」の3観点については、指導計画に合わせて評価を行う適切な時間を設定することが大切です。また、3観点が重なり過ぎることなく、児童生徒全員の姿として見取ることによって評価可能な計画にすることも必要です。単元において、3観点を評価する留意点として、次のものが挙げられます。

知識・技能

教科によっては「知識・技能」をまとめて評価するもの、「知識」と「技能」を分けて評価するものがあります。それぞれの教科の特性に合わせて評価します。

※現行の学習評価の「理解」の観点も含めることに注意が必要です。

思考・判断・表現

授業中の課題発見や解決の過程において、児童生徒が発揮するものを評価します。授業中の発言や話し合い活動の様子、自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習の感想等の記述内容を見取ることが考えられます。

主体的に学習に取り組む態度

挙手の回数や毎時間ノートを書いているか等、性格や行動面の一時的に表出された場面を捉えての評価ではありません。自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意味的な側面を捉え、適切に評価していくことが大切です。

10 国語科の学習評価と計画

新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価

小学校国語科



学習評価で大切にしたいこと

年間を見通した学習評価

国語科では、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して指導することが多いです。そのため、年間を見通して、単元の目標や評価規準を設定することが重要になります。

児童の具体的な姿を想定した学習評価

国語科では、言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。児童が取り組む活動の中で、例えば文章を読み取ってまとめているリーフレットの中に、どのような児童の記述があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのかについて、言語活動と関連付けて想定しておくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、国語科においては、基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもたらすことを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよくよく使おうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

国語科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、国語科では次の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 粘り強さ（例：積極的に、進んで、粘り強く等）
- II 自らの学習の調整（例：学習の見直しをもって、学習課題に沿って、これまでの学習を生かして等）
- III 他の2観点（知・技）（思・判・表）において、重点的に指導する内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- IV 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

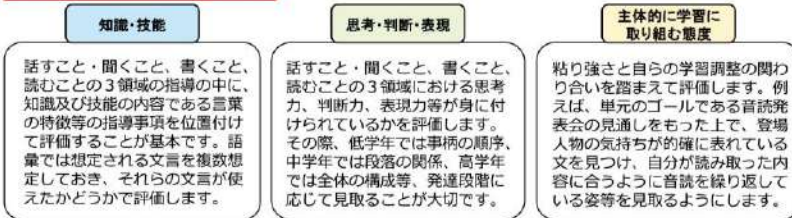
第5学年及び第6学年（思考力・判断力・表現力等）「C 読むこと」（言語活動例：C（2）イ）
本単元の言語活動：気に入った宮沢賢治の作品について、ポスターを基に友達に推薦する活動

Point

単元の評価規準例 粘り強く（I）登場人物の相互関係や心情等について描写を基に考え（III）、学習課題に沿って（II）推薦しようとしている（IV）。

ねらいや言語活動と結び付けて、粘り強さや自らの学習を調整する内容を位置付けることが大切です。

3観点を評価する上での留意点



単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

3観点をバランスよく評価

国語科では、言語活動のまとまりの中で評価を行います。そのため、単元全体の言語活動を見直し、児童の姿が最も見取りやすい時間に評価を位置付けることが大切です。

2 単元の評価規準の具体化

国語科では、単元の評価規準を教材に照らして具体化したものを「指導と評価の計画」に位置付けます。具体化に向けては、文学的な文章を読み込む等、教材分析が必要です。

（例）第6学年「C 読むこと」（文学的な文章）の授業 ◇ 単元名 宮沢賢治の作品を読み味わい、ポスターで友達に推薦しよう 教材名「やまなし」、宮沢賢治作品

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情等について、描写を基に捉えている。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	①粘り強く登場人物の相互関係や心情等について描写を基に考え、学習課題に沿って推薦しようとしている。

◇ 指導と評価の計画（全10時間）

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
3	・かにかの親子の様子について、「五月」と「十二月」を比べて読む。	思	1	【思・判・表④】（観察） ・かにかの親子や兄弟の相互関係等について、かにかの言動等に着目しながら、「五月」と「十二月」を対比して読む読み方を確認している。
4	・川底の様子について、「五月」と「十二月」を比べて読む。	知	2	【知・技④】（ワークシート） ・色彩表現や擬声語・擬態語等の使い方に対する感覚を働かせ、それらの語や語句を使って発言したりワークシートにまとめたりしている。
6	・飛び込んでくるものについて、「五月」と「十二月」を比べて読む。	思	本時	【思・判・表④】（観察・ワークシート） ・「飛び込んでくるもの」と「かにか」の相互関係等について、かにかの言動や周りの情景を表す描写等に着目しながら、「五月」と「十二月」の特徴を対比して読んでいる。
8	・推薦したい宮沢賢治の作品についてポスターにまとめる。	主	○	【主④】（観察・ワークシート） ・ポスターで推薦するという学習課題を意識しながら、何度も文章を読み返して場面の様子特徴付けている描写等を見付けようとしている。

指導に生かす評価
単元の前半で、対比して読み進められていない児童に対して、机指し指導の中で叙述を整理して示す等しながら支援します。

記録に残す評価
対比した読み方を基に読み取っているかについて、児童全員の学習状況を記録します。授業後に評価規準を基にワークシートの記述から見取ることも必要になります。

*明示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導要領の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況（B）の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例【思・判・表④】

かにかの言動や周りの情景を表す描写等に着目しながら、かわせみややまなしの共通点や相違点から関係を捉えることを通して、「五月」は弱肉強食の恐ろしい世界、「十二月」は穏やかで平和な世界のように、それぞれが象徴しているものについて対比的にワークシートに記述したり発表したりしている。

Point

- 具体的な児童の姿の設定
 - ・目の前の児童が関わってくる叙述等を見定める。
 - ・叙述等を解釈した児童の読みを複数挙げる。
 - ・指導事項に照らして児童の読みを一般化する。
- 評価方法の例
 - ・叙述にサイドラインを付けたり理由を書き込んだりしているワークシートやノートの記述
 - ・リーフレットなど言語活動でまとめた作成物

小学校国語科

11 算数科の学習評価と計画

新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価

小学校算数科



学習評価で大切にしたいこと

学びが深まった姿で目標を捉え、評価対象とする「何を評価すればよいのか」と難しく考えず、問題発見・問題解決している児童の学びの過程を具体的にイメージし、目標に到達した姿を捉えてから、評価を行いましょう。

表面に出にくい資質・能力は多面的に見取るテストで評価しにくい「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」は、具体物の操作や言語活動の行動観察、図や式表現のノート分析等、複数の評価方法から見取しましょう。

評価の観点及びその趣旨

児童が目標を達成したかどうかを判断するためには、学習状況を観点ごとに評価することが大切です。そのため、算数科の教科目標をもとに作成された「評価の観点及びその趣旨」で方向性を確認し、判断のよりどころを表現した評価規準を作成し、実際に観点別学習状況の評価を行っていくことが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。 日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成する際、下記のⅠ、Ⅱの視点を踏まえ、学習指導要領の内容をもとに作成します。

- Ⅰ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うとする側面
- Ⅱ Ⅰの粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

Point
単元の評価規準の作成に当たっては、学習指導要領の内容を基に作成した「内容のまとまりごと」の評価規準やそれを更に具体化した「具体的な内容のまとまりごと」の評価規準を参考にすることができます。

第3学年「A 数と計算」(4)「除法」

単元の評価規準
①除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。
②除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業中の問題発見や解決の過程において「知識」は繰り返し使う中で、定着し理解が深まります。また、「技能」も繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものとなっていきます。これらのことから、単元の後半に評価の機会を設定することが考えられます。	授業中の問題発見や解決の過程において児童が発揮するので、授業中の発言や話し合いでの活動の様子と、自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習感想等の記述内容を見取ることが考えられます。	既習事項を活用したり、話し合いで他者の意見を参考にしたり、振り返ってよりよい表現や方法を考えたり、日常生活の場面において活用しようとしたりする姿等、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意図的な側面を捉え、評価していくことが大切です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画 1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

- 1 3観点をバランスよく適切に評価する
「指導と評価の計画」を作成するに当たっては、単元目標を分析し、各時間のねらいにふさわしい1～2観点を評価項目を精選し、単元を通して3観点をバランスよく評価します。
- 2 「思考・判断・表現」の評価場面
「思考・判断・表現」の評価については、単元だけでなく、単元の評価規準の①や②の評価内容ごとに、問題発見や解決の過程を行う時間に「記録に残す評価」を行うことが考えられます。

(例) 第3学年「A 数と計算」(4)「除法」の授業
◇ 単元名 あまりのあるわり算
◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除数と商がともに1位数である除法の計算が確実にできる。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	①除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(「わり算探し」など)

指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法	指導に生かす評価	記録に残す評価
1	余りのある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見付け方を具体物や図などを用いて考える。	思	主	[思・判・表①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 [主①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。	第1時では、余りのある場合でも除法を用いてよいことを見出しているかどうかを見取ります。主に「努力を要する」児童を把握し、支援を行います。	
2	余りのある場合の除法の式の表し方や、余りなどの用語の意味を知る。	知		[知・技①] (ノート分析) ・包含除や等分除など、除法の意味について知っている。		
3	余りと除法の関係を調べる。	知		[知・技③] (ノート分析) ・割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。		
4	等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できるかを考える。	思	本時	[思・判・表①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。		第4時では、等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できることを見出しているかどうかを把握して、記録に残します。

*例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導要領の形式とは異なります。

本時におけるおおむね満足できる状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]
ブロックを操作しながら、等分除の場面についても、余りのある場合の除法が適用できるかについて考え、包含除と同じように余りのある場合の除法を用いてよいことを説明している。

Point
具体的な児童の姿の設定
本時目標に向けて、どのように思考が深まるか、どのように表現が洗練されるか等を、具体物の操作や図による表現、言語活動等に合わせて設定します。
評価方法の例
・授業中の発言や話し合いでの活動の様子
・自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習感想

小学校算数科

12 学習評価を充実させる振り返り

1 主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

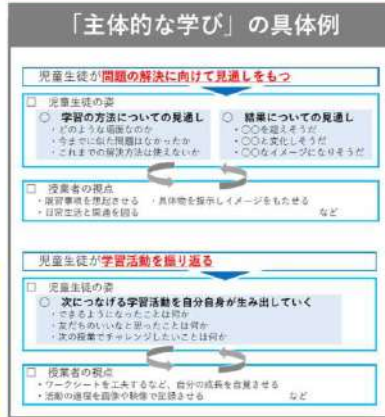
次の学びにつなげる「振り返り」

振り返りは、学習活動の意味を考えるなど、身に付いた資質・能力を自覚することに加え、児童自身が気づきや疑問などから新たな課題を生み出し、次の学びにつなげるなど、主体的に学習に取り組ませる上で大切な活動です。

そのため、単元（題材）全体を通して、児童が学習を自分の問題として捉え、粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学習活動を児童自らが生み出していく場面を位置付けることが重要です。

【POINT】

- ・「主体的・対話的で深い学び」とは、学習指導要領に示された内容を、児童が「どのように学ぶか」について、具体的姿として示したものです。
- ・児童の具体的な学びの姿を考えながら、単元（題材）のデザインを考えることが大切です。



「振り返り」の質を向上させるための5つのポイント、13の視点

「ポイント」	振り返りの「視点」
【1】「振り返り」の目的を確認する。	① これまでの学びを自覚する。 ② これからの学びを見通す。 ③ 次の学びを生み出す。
【2】学習時間のまとまりを意識させる。	④ 1単位時間を振り返る。 ⑤ 単元全体を振り返る。 ⑥ 複数の単元を関連付けて振り返る。 ⑦ 他教科等と関連付けて振り返る。
【3】「振り返り」の内容を焦点化する。	⑧ 学習集団の「めあて」「課題」及び自己の「めあて」「課題」から振り返る。 ⑨ 学習の過程を振り返る。 ⑩ 認知の過程を振り返る。
【4】「振り返り」を振り返らせる。	⑪ 自己の成長を自覚する。 ⑫ 「振り返り」を批判的に検討する。
【5】他者と「振り返り」を共有させる。	⑬ 他者の「振り返り」の内容を自分の学びに生かす。

引用：「教育課程編成の手引」
『「振り返り」の充実に向けて』
授業改善に生かす振り返り

北海道教育委員会
大分教育センター
高知県庁

▶ 子ども自身の学びの深化やつまずきの改善につながるよう、ねらいをもった「振り返り」を計画的に位置付ける。

・子どもに何を振り返らせる？

・どのようなタイミングや場面で？

・次の学習にどのようにつなげる？

重要!



振り返りを共有する



- ・個人で本時の学びを振り返ることに加え、他者がどのようなことを学んだのかを知ることができる。
- ・子どもの記述を価値付け、瞬時に全体共有することができる。
- ・子どもの記述をもとに、教科の言葉を使ったよりよい表現に高める機会になる。
- ・記録を蓄積することが概念形成につながる。



振り返りを共有する



- ・全員で瞬時に考えの共有ができる。
- ・コメントを入れ合うことで、多角的・多面的に捉えることにつながる。
- ・学びの記録を蓄積することで、学びの履歴を確認できる。

友達の振り返りを読むことで、多面的・多角的な見方への広がり期待できる。

https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/R05_tebiki.html

<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2114948.pdf>

https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310305/files/2021040500303/file_20223104174025_1.pdf